

伝統的技術の実態の定量的把握と 継承に向けた課題検討

キーワード 伝統的技術, 定量的把握, 課題検討



■ 研究概要

2014年11月に日本の手漉和紙技術がユネスコの無形文化遺産に登録されました。2020年12月には日本の伝統建築工匠の技：木造建築物を受け継ぐための伝統技術がユネスコの無形文化遺産に登録され、茅葺、建築物木工などが指定されました。

日本の伝統的技術は、国際的な評価を得る一方で、日本の手漉き和紙生産者、茅葺き屋根の葺き師、伝統木構法の技術をもつ大工などは、高齢化と減少傾向にあり、今後の継承が危惧されています。また、ユネスコの無形文化遺産に登録されていなくても、日本には多くの貴重な伝統的技術が現存し、その継承者も同様の傾向にあるといえます。

こうした伝統的技術を継承するために、継承者などの実態の定量的把握を踏まえて、今後の課題について検討します。



■ どのような共同研究・連携に結びつけられるか？

- ・ 伝統的技術の継承者を有する地域の自治組織との連携
- ・ 生涯学習・社会教育行政との連携
- ・ 伝統的技術の保存・継承関連の協会・団体・機関との共同研究

小川 三四郎 准教授 OGAWA, Sanshiro

専門分野：森林経済政策学

E-mail : ogawa@tds1.tr.yamagata-u.ac.jp

